第289回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

『人格をつなぐのは、コトバ』 ～ 『未来を生きる』 ～

筆者は、振替休日の 2024 年 11 月 4 日 『南原繁研究会』代表を務める第 21 回『南原繁シンポジウム』(2024 年 11 月 4 日 学士会館に於いて) テーマ『あらためて戦争と平和を考える 一 世界における法秩序の脱構築をめぐって』に赴いた(画像)。

『南原繁研究会』は、南原繁(1889-1974)没後 30 年にあたる 2004 年に発足した。 2024 年は【南原繁研究会発足 20 周年 & 南原繁没後 50 周年】でもある。 南原繁の息子【「南原実(1930 年 11 月 12 日～2013 年 11 月 12 日) & 南原晃(2016 年ご逝去)】のお孫様も参加されていた。

想えば、筆者は、南原繁没 30 周年記念事業でスタートした『南原繁研究会』(2004 年) 以来、南原実先生とは毎年、wife と一緒にお逢いして、夕食をしながら、親しい深い学びの時が与えられた。 『未来を生きる君たちへ』(2005 年発行 ; 画像) も頂いた。 熟読したものである。 まさに、筆者にとっては『未来に生きる君たちに』 (南原実著) の貴重な得難い『人生の特別ゼミナール』の時間であった。【『ふたりの人格をつなぐのは、コトバなのだ。―― コトバは、ついには、マナザシのなかへと昇華する。」&「おろかな考えは偶然が運んでくるが、かしこいことばは 叡智からくる。」】が、鮮明に思い出される。

『環境問題のバイブル』と言われる、アメリカの海洋生物学者 : レイチェル・カーソン (Rachel Carson 1907-1964) の『沈黙の春 (Silent Spring) 』 (1962 年) が出版され、日本語訳は、南原実先生によって出版されている (ペンネームの為に知る人ぞ知る) 。 筆者にとって『人生の宝物』である。 忘れ得ぬ人生の良き想い出である。

また、南原繁のお孫様(南原晃の息子御夫婦)は、東久留米での読書会にも参加され、新渡戸稲造(1862-1933)『武士道』の第 12 章『自殺および腹仇の制度』の前半を音読して頂いたものである。車で池袋駅迄、送って頂いた。 それにしても、ご夫婦の会話は、ユニークで、大爆笑で、心が癒された。

第 21 回　南原繁シンポジウム

あらためて戦争と平和を考える

――世界における法秩序の脱構築をめぐって――

南原繁は、若き日にカントの「永久平和論」に接して以来、最晩年の著作『政治哲学序説』に至るまで、正義に基づく永久平和が最も大切な政治価値であり、それを実現する国際政治秩序について考察を重ねました。その関心は国連や国際司法裁判所の改革といった具体的な問題にも及んでいました。

今、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるパレスチナの占領支配とジェノサイドともいえる状況の中で、まさしく国際機構や国際法のあり方が深刻に問われています。

そこで、第一部基調講演では、『国際法以後』(みすず書房、2024年)において実効性なき国際法の構造的問題を論じておられる最上敏樹氏（バーゼル大学客員教授、国際基督教大学名誉教授、早稲田大学名誉教授）をお招きし、国際法の「脱構築」をめぐってお話いただきます。第二部パネル・ディスカッションでは、三名のパネリストに、それぞれの視座から本テーマをめぐって論じていただきます。

南原繁研究会は南原没後 30 年にあたる 2004 年に発足しました。2024 年は本研究会発足 20 周年、さらには南原没後 50 年にあたります。本シンポジウムが、「あらためて戦争と平和を考える」機会となることを願っています。

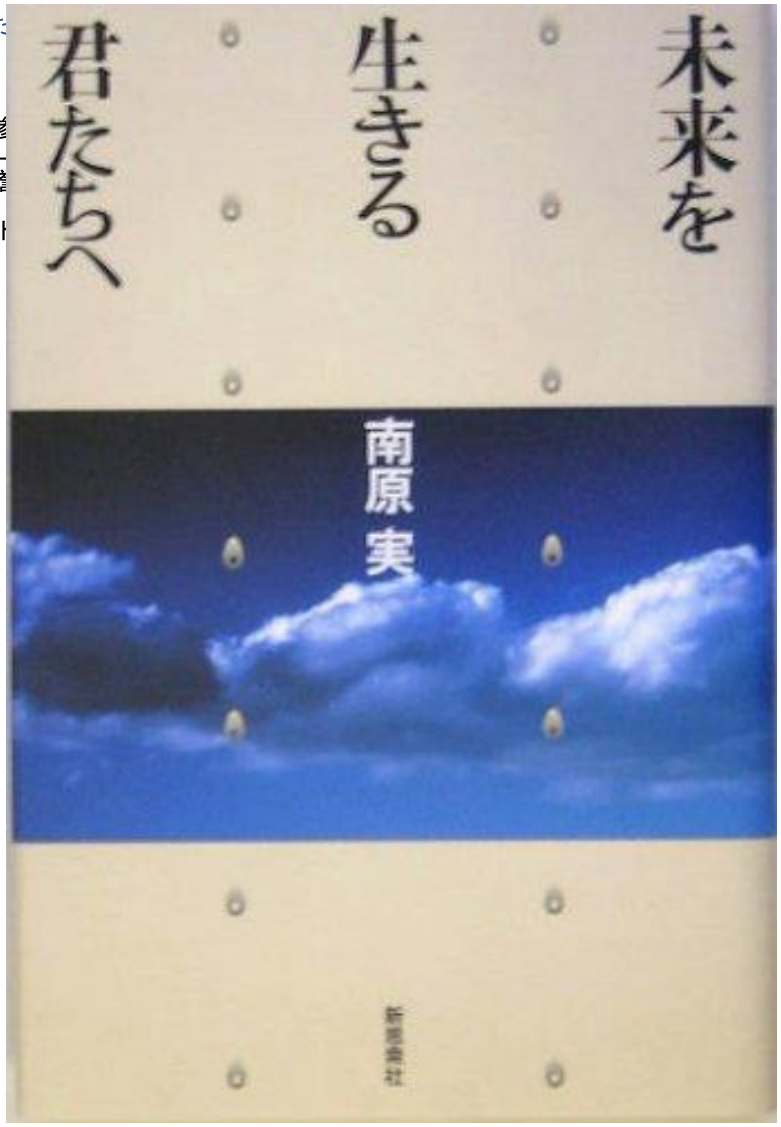
日　時：2024 年 11 月 4 日（月・振替休日）
13:00～17:00 （開場 12:15）

場　所：学士会館 202 号室

東京都千代田区神田錦町 3－28　電話 03-3292-5936
ズームミーティング方式でオンラインでも参加いた

参加費：会場での参加　一般 1,500 円、学生 700 円
オンライン参加　無料
いずれの参加にもお申し込みが必要です（裏面ご参

主　催：南原繁研究会 （代表　樋野興夫　順天堂大学名誉

後　援：岩波書店、学士会、東京大学出版会、公共哲学ネット

協　賛：富山県立小杉高等学校同窓会